

### 中国の社会階層分化

呉, 曉林 / WU, Xiao Lin

---

(出版者 / Publisher)

法政大学小金井論集編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学小金井論集 / 法政大学小金井論集

(巻 / Volume)

3

(開始ページ / Start Page)

93

(終了ページ / End Page)

101

(発行年 / Year)

2006-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00004333>

# 中国の社会階層分化

呉 曉 林

## はじめに

中国社会は今、激しく変化している。長期の経済成長に伴い、中国人全体の生活水準が向上し、衣食生活が満たされ、都市部ではマイカーブーム、マイホームブーム、観光旅行など収入の増加による消費の高級化が起り、ニューリッチ層が急速に台頭してきた。それを反映しているかのようにアメリカ有名ビジネス誌が毎年、中国人億万長者の番付を公表するほどになった。一方、国有企業の改革にリストラされた労働者、種々の差別を受けている農民工、収入増が伸び悩んでいる農民、生活費や子供の教育費のやりくりで喘ぐ低所得者が「弱勢群体」（弱者層）と呼ばれ、その生存状態が注目されるようになった。中国社会はもはや二つの階級（農民・労働者）と一つの階層（知識人）といった中国共産党の公式見解で把握できなくなり、社会構造が多様化している。その社会階層の分化は権力、社会地位、職業収入の格差など人々の日々の生活に密接な側面から議論されるようになり、その中で、2002年2月、職業に基づいた「十大階層」区分・「五つの社会経済的等級」を提起した中国政府シンクタンクである中国社会科学院社会学研究所の研究レポート、陸学芸主編『当代中国社会階層研究報告』<sup>(1)</sup>が発表されると、にわかに社会各方面から強烈な反響を引き起こした。それは豊富な社会調査のデータに基づいた改革開放後の中国社会の各階層の変動を射程に入れて体系的に分析し、告白した衝撃的なものと賞賛された。一方、社会主義体制という公式イデオロギーの下で、社会の主人公とされた工場労働者・農民を社会の下層と位置づけした論点も反発を受けた。一時、発禁されたかどうかで、うわさはうわさを呼んだ事態となった。

---

注 (1) 陸学芸主編『当代中国社会階層研究報告』社会科学文献出版社 2002年1月第1版。

中国社会の分化には新しい職業の出現、かつてないアクターの誕生が広く見られる。われわれはここ数年、多数に公表された中国社会の変化に関する研究書、現地報告と実態を鑑みて、改革開放前とその後の社会構造の変化をその方向性と特徴から考察する必要がある。おおざっぱにその間の推移を見ると、80年代に一部の人が先に豊かになることは容認・奨励され、90年代以降は私营経済の急成長、証券市場の発展、住宅商品化と市場化などは推進された。かつて生産手段の私的所有の廃絶により階級と不平等秩序の根絶を目指していたいわゆる社会主義の中国社会は個人が財産の所有を追求する方向に転換された。社会階層分化は有産階級が創出されていく中で、社会構成員が自ら持つ資源と資産の多寡によって、異なる階層に分化していく過程であると筆者は考えている。

また、中国社会階層の分化は中国社会経済の三つの構造的変革を反映したものとと言える。①1980年代以降は、中国は移住と職業が厳しく統制された政治身分の社会から、個人の職業選択の自由化と経済的自立を認め・奨励する社会へ（統制の緩和、政治的分層から経済的分層へ）変わった。②改革開放政策の推進に伴い、市場化路線が次第に明確してきて、計画経済から市場経済へと経済システムの変化が加速し、③巨大な農業部門が縮小され、工業化・第三次産業化・知識経済化へと産業発展の高度化が求められてきた。

このような変化は中国歴史上、未曾有のものであり、社会的不安をひきおこし、同時に新しい時代の到来を宣告しているものである。

## 第一節 階級論に替わる社会階層論の出現

前出の『当代中国社会階層研究報告』が中国国内外に衝撃を与えた理由の一つは「従来の公式的な階級観から決別し、階層論的視点から現代中国における社会的不平等を問題にした点」といわれている<sup>(2)</sup>。この研究グループが1995年に李倍林を中心に編集した報告レポートは『新时期中国階級階層報告』と題していたが、今回は「階級」という文字を削除している。どのような背景と現状認識があったのか、それは中国における階層論の持つ政治的意味合いに対する理解につ

---

注(2) 園田茂人「中国を揺るがす経済格差の拡大—ベストセラーはなぜ発禁になったか」『論座』2002年9月号。

なかる問題である。

### (1) 階級論が薄れた理由

日本では社会科学分野・特に社会学においてマルクス主義的な立場の人々が階級という語を用い、それ以外が階層の語を用いる傾向がある<sup>(3)</sup>。中国では「階級」と「階層」という二つの言葉はそのような対立する意味合いよりも、階層は階級の下位概念として使用されてきた。「階級」が特定の意味合いを持っていることはよく知られているが、筆者には「階層」はさまざまな職業につき、違った社会地位にいる人たちといった漠然としたイメージしかなく、社会階層の語はなじみの薄い言葉であった。少なくとも階層は、きちんと区分された階級社会という枠組みの中で一部の社会構成員（階層）が特定の階級から離脱したり、他の階級に仲間参りしたりして階級に附随するものとされていた。

中国における社会階級・階層についての理解は二つの経路から形成された。ひとつはマルクス主義の三大階級、いかえれば単に生産手段（資本や工場など）を所有することによって生産された価値の分け前の大部分を受け取る資本家、生産手段を所有しないために生存水準のぎりぎりまでの分け前しか受け取れない労働者と、小さな生産手段を所有し自らも労働する自作農や自営者と、三階級区分論に依拠したものである。

もう一つは1920年代に毛沢東の書いた著名な論文「中国社会各階級の分析」や「湖南農民運動考察報告」などマルクス階級論を中国社会に適用した分析手法と階級階層の規定に由来していた。中国共産党はまさにその階級理論に基づき、プロレタリアの前衛として、中国革命の依拠する人々、団結する人々、革命の対象となる人々を想定し、革命運動と国家建設を展開してきた。しかし、階級論は政治運動を中心とする数多くの社会運動を階級対立・階級矛盾の激化の分析を通じて理解し、説明し、かつ形成していく現実社会への働きを強く持っていた。中国社会に十年にわたる大混乱をもたらした文化大革命の理論的根拠となったのは毛沢東が提起したプロレタリア独裁下の継続的革命＝階級闘争理論そのものであった。

---

注 (3) 原純助・盛田和夫 (1999) 『社会階層』3 ページ、東京大学出版会。

改革開放の国策をうちだしてから、文革、および階級闘争理論に対する否定は中国社会を階級闘争で荒廃した状態から正常な秩序に戻し、経済発展に悪影響を与えるような政治運動をできるだけ避けるような社会的合意によるものであった。「生産手段が国有化されている体制にあっては、根本的な階級間対立は存在しない」などの見解は公式的に打ち出され、社会主義近代化の建設を社会全体の共通目標と掲げられ、経済発展に必要な社会の安定と協調の維持が重要命題となっていた。それは必然的に階級論の現実的意義を色褪せさせた。実際、1978年以降、これまで長く存続してきた階級区分制度は崩壊してきた。農村では、中国共産党は79年1月、地主、富農、反革命・悪質分子などの「4類分子」に対して名誉回復する決定を行い、都市部では同年11月から社会主義化改造期に「資本家」「資本家の代理人」といわれた「小商・小販（行商）」、小手工業業者に対しても名誉回復を行った。以上の人たちは労働者の一部とみなされるようになった。また、かつての政治運動、主に反右派闘争や文革の被害者の名誉回復も行われ、1981年前半に右派分子とされた54万人、1982年末に文革で裏切り者、スパイ反革命分子と決め付けられた党・国家・軍隊の指導者を含めた300万人の幹部の名誉回復が行われた<sup>(4)</sup>。

## (2) 脱イデオロギーと階層概念の魅力

対外開放政策を実行してから、中国は資本主義先進諸国の産業化の進展と新たな社会変貌を知ることができた。これはマルクスの階級理論と現実の乖離を浮き彫りにし、中国においてマクス・ウィバーの階級論、「階層理論」や「階層の近代化論」に対する知的関心を高めた。まず、マルクス理論において展開された「労働者階級の絶対貧困化」「自営層の消滅ないし縮小」「階級闘争の激化」などの予言がほとんど外れた。資本と経営が分離し、巨大産業組織が高学歴の被雇用者の経営・管理職層によって担われるようになり、マルクスの階級理論が主として念頭においていた鉱業および製造業などの第二次産業の伸長がとまって、金融・情報・サービスなどの第三次産業のほうが経済の中心になっている。その現実を前にして、中国国内で知識人のマルクス主義離れが進展し、「階級の放棄」

---

注(4) 段瑞聡(2005)『現代中国—歴史・政治・経済・社会・外交』157ページ、晃洋書房。

を公然と主張する人も国内で現れるようになった。そのかわりに、ブルジョア的  
社会学の問題提起と理論は改革開放後の中国社会の現実的变化に合致するところ  
が多く、受け入れられた。たとえば、現実の社会では社会的威信や収入の異なる  
職業が社会階層を序列づけ、産業社会が人々の職業間の社会移動を伴わせ、開か  
れた階層社会をもたらすなどの考え方はきわめてリアリティであった。社会階層  
は英語で social strata, また class の二つの語がある。Strata はともともと地層を  
意味する stratum の複数形で学術研究に限って使用される。Class は階級、階層、  
学級、職級など含まれる意味範囲が広い。階層概念の魅力は何らかの社会経済的  
条件を同様にする人たちの集合を意味するところにある。これによって、収入、  
資産、耐久消費財、職業、教育、名誉、社会地位などさまざまな角度から社会変  
化と社会構造の変動を考察することができた。実際、前出の『報告』では、「「階  
級」という言葉に激しい社会衝突、動乱、あるいは人との紛争を連想させられ、  
一部の学者と民衆は反感を覚える。「階層」は衝突を伴わない等級的性質を持つ  
集団概念である」と告白し、「現代中国における生産手段のありかたはもはやマ  
ルクスや毛沢東の時代とは異なり」、「現代の中国社会における階層構造の特徴を  
把握するにあたって、伝統的な階級分析をもう一度見直し、科学の発展と現実的  
な変化を踏まえて、現実的な多元的分類による枠組みをつくらなければならない」  
と宣言している。

### (3) 新しいアクターの出現と階層論

中国における社会階層の研究の一つのきっかけは個人経営者や私営企業につい  
ての社会調査、その階級的属性の把握をめぐる活発な議論である<sup>(5)</sup>。改革開放  
以降、1980年代後半、「个体戸」（生産手段を自ら有し、7名以下の従業員を雇  
用する者）、「私営企業」（生産手段を自ら有し、8名以上の従業員を雇用する者）、  
などの私的経営者がこれまで存在しなかった社会階層として台頭してきた。かれ  
らの社会階級属性、つまり資産階級、それとも労働者階級とみなすか、論争が起  
こった。結局、経済体制改革への評価と社会主義のイデオロギーのせめぎあい  
で一致した見解が達成されなかった。しかし、注目すべきは、私的経営者による搾

---

注 (5) 園田茂人編『現代中国の階層変動』第一章に詳しい。

取問題があるかどうかといった社会主義イデオロギーの根幹にかかわる問題は棚上げにされ、かれらを社会主義体制下の労働者階級、管理者階級とみなし、労働大衆を構成する一部分・層であるといった階層論的理解が登場した。私的経営層はその多くが農村で生活していた有能な人々、あるいは幹部・党員たちである。そして、都市部では管理職や労働者からの転出組が多いのに対して、農村部では農民から私営企業家になったケースが多い。また、その創業動機や資源の調達ルートなどから、社会主義体制下で資源の再分配に従事しえたエリートたちが私営企業家の主な発生母体となっていることが指摘されている<sup>(6)</sup>。また、私営企業はすでに中国経済の有力な担い手となっている。しかし、階級論的に把握すると生産手段を所有する資本家は敵視されることになりかねないし、階層論は「資本家＝人民の敵」という図式に陥ることを避けることができ、政治的にも無難なアプローチであった。

## 第二節 中国社会階層の構成

### (1) 職業の多様化

中国では現在、1838種の職業があり、新たな職業も次々と現れている。2003年年末、中国労働・社会保障省は新たな国家職業基準を追加・発表し、ネット管理者、プログラマー、マルチメディア制作者、企業トレーニング・スタッフ、プロジェクト管理者など11の新興職業の基準を明らかにした。2005年マスコミで伝えられている中国の高収入の職業のベスト10を見ると、第一位はセールスマンで、中でも優秀なセールスマンの月給は1万元(15万円)超。第2位は不動産業、8000元から1万元。第3位は金融業で、マネージャーは7000元。第4位の物流業は収入が急上昇し、マネージャーは7000元前後。5位のIT業は一時の不況からよみがえり、人材不足が顕在し、マネージャーの収入は6000元以上。6位のコンサルティングは企業や個人投資家の顧問であれば8000元前後、7位であるネットワークゲーム業は人材の不足が深刻し、8000元。8位の医薬関係は、4500

---

注(6) 園田茂人編『現代中国の階層変動』、16ページ。

(7) [http://www.headlinechina.com/p\\_dtl.php](http://www.headlinechina.com/p_dtl.php) (中国経済網) -2005-12-21

元。9位であるネットワークメディアは急速に発展し、4000から5000元までは中心で、上は1万元にいく場合もある。第10位である教師は職業中の人気業種、大学先生5000元以上という調査が報告されている<sup>(7)</sup>。しかし、一方2003年には農村からの出稼ぎ労働者は9800万を超え、都市部のレイ・オフもしくはリストラされた国有企業の労働者と一緒に中国都市部の社会底辺となっている。

## (2) ピラミッドの社会構造

前出の『階層研究報告』では中国の職業分類をベースに、政治、経済、文化などの資源占有状況を基準として現在の中国社会を10の階層に分類している。さらにそれらの10の階層は社会の上層、中の上層、中の中層、中の下層、社会の下層という5つの「社会経済等級」に分けられている。表1でそれぞれの割合を見る限り、中国社会は役人・幹部を頂点とするピラミッドの社会構造を維持しながら、企業経営者・個人経営者など新興勢力が成長してきたことに特徴を見いだすことができるといえよう。

表1 中国10大社会階層と比例分布

階層			資源の占有状況	人数割合 (%)
序列	職業	所属		
1	国家と社会の 管理職	党・政府機関、事業団体で 行政管理権を行使する 上級幹部・役人	政治的資源、一部の経済 資源、比較的多くの文化 資源	約2.1
2	経営管理職	国有企業の中・上層管理 職、一部の部門管理者とし ての末端管理職	文化的資源と政治的資源	約1.6
3	私営企業主	個人資産もしくは固有資産 を有し、投資収益を得てい る雇用者	少量の文化的資源もしく は政治的資源	約1.0
4	専門技術職	国家機関・党組織、国有企 業・事業体、集団所有制企 業、非公有制企業の専門・ 技術的業務に従事する人	文化的資源	約4.5

5	事務職	企業・機関・学校・各種団体の責任者の日常的行政事務処理を補佐する専門事務要員	少量の政治的資源もしくは政治的資源	約 7.2
6	個人経営商工業者	個人資産（不動産を含む）を有し、生産・流通・サービス業などの経営活動、金融・債券市場に投資することを持って生計を立てている人	少量の経済資源	約 7.1
7	商業・サービス業従事者	商業・サービス業などで非専門的な・非肉体労働に従事している者	上記三つの資源をわずかしか有していない。	約 11.2
8	産業労働者	第二次産業で肉体・半肉体労働に従事する者	3種類の資源わずかしかもっていないもの	約 17.5
9	農業労働者	集団所有の耕地を請負、農業・林業・牧畜・漁業を唯一または主な職業、それを唯一または主な収入源とする農民	3種類の資源わずかしか有していない	約 42.9
10	都市と農村の無職者・失業者・半失業者	定職についていない労働年齢層（学生・就職未経験の主婦を除く）、多くが貧困状態にある。	3種類の資源をほとんど有していない	約 4.8

出所：段瑞聡（2005）を修正・引用。

このピラミッドの社会構造は実は所得格差の裏返しでもあり、社会的富は一部の人に傾斜して配分されているわけである。中国国家統計局の発表では、2003年中国人の平均年収は1万4000円で約18万円程度であるが、各階層の格差は統計年鑑などには出てこない。中国社会科学院の社会学研究所は2004年7月に、最新の研究成果（『当代中国社会流動』、社会科学文献出版社）を発表した。それによると、7億4000人の就労人口のうち、企業経営者層が1.6%、私営企業家層が1%、さらに名目賃金がさほど大きくないが、

実質所得や生活水準が高いとされる国家と社会管理者層、いわゆる中央と地方の官僚が2.1%となっている。企業経営者、私営企業家および官僚の三階層が富裕層のほとんどを占めると考えて、三者あわせると5%で、おおよそ3000万～4000万人の規模になる。富裕層の年収水準はたいてい数十万元を超えている。彼らの消費パターンといえば、マイカーやマイホームを所有し、高級輸入ブランドの耐久消費財を買い、年に1回は海外旅行に行くといった具合になる。

中国は所得格差の大きい国で、マイカーやマイホームがブームになっている都市部はすでに富裕層の町（大規模高級マンション、郊外別荘地など）と貧困層の町が出現するぐらい変化している。その実態についてはあらためて検討する。